

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	「いこいの里」花いちもんめ
所在地 (県・市町村名)	始良減加治木町木田4888-4
記入者名 (管理者)	本村 ヨシ子
記入日	平成21年5月20日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の(2)自治会と交流を図って、職員全員で日々理念に沿って支援に努めている。自然の環境を大切に理念を生かしている。	理念に沿ったホーム作りに今後も力を入れていきたいところです。地域の子供達と交流を大切に行きたいと考えています。
<input type="checkbox"/>	2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はGHの理念と事業者の理念があり共有している。	
<input type="checkbox"/>	3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関、リビングと掲示して いつでもパンフレットと一緒に取って頂ける様にしている。	
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/>	4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	現在、取り組みとして、毎土曜日10時より庭園を開放してブッククロージングをオープンしている。	
<input type="checkbox"/>	5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	子供会・老人クラブ・夏祭り・運動会・保育園 又自治会 に入会して多くの交流をもっている。	○ 地域の行事等には参加を行なっているが、これからも多くの地域の方々と交流をしていきたいと考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(苑) 独自で独居の高齢者の方々を呼んで食事会など行なっている(自治会・民生委員協力)		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年取り組みの改善点を全スタッフへ投げかけて外部評価に取り組んでいる。 自分達の理念からスタート→自己評価→外部評価を日々スタッフに意識付けを行っている。		
b	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で活発な意見交換が行われている。(日常生活の事、不安症状)などの表情について聞かれて多くの話が出ている。サービス計画表を作成してどなたでも見ていただけるようにしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政が行う研修会・地域福祉と医療機関と交流を持っている。 質の向上に力を入れている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度は現在一人制度利用をされております。 職員へは、理解出来るように指導して社協との協力も頂いている。	○	2ヶ月に一回の検討会等で学びの時間を作っている。 今後も全スタッフが理解出来るように努めたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	取り組みをして、更衣時、入浴時の全身観察・外泊前・外泊後の観察を密に行っている。運営会議の中でも気づかれたことを話して頂くようお願いしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者・ご家族様が安心して入所出来るように不安や疑問がないか話しをして理解されるまで説明をしている。契約時必ず文書の内容を読み合わせて理解を得ている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情委員を作り、利用者の言葉・声を大切にしご家族様の来苑時は気付かれたことを声にして頂いている。また、ご家族様へアンケートを取ってスタッフの成長につなげている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、月初めに健康便りで日々の姿や行動などを記入して発送している。言動等は運営会議で報告している。また、毎月ご家族様面会時、預り金台帳を確認してサインを頂いている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見、苦情の受付も設置。掲示している。委員を中心に勉強に取り組んでいる。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>事業所合同スタッフ会議(食事を兼ねて)を年2回実施して、リラックスした環境で話が出来るように配慮し、努めている。ミーティングや申し送りを利用して職員の懸案を聞いている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務表作成は、利用者 ご家族様が日々安心出来る様作成している。早出・遅出など利用している。夕食後は遅出19:00時上がりを作成して、安心して就寝出来るよう介護している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>現在は、馴染みの職員のみでやっている。特にご家族様へも安心して頂いている。最前の努力をしています。</p>	<p>○ 異動等はありません。介護の現場を十分理解してスタッフの精神面のサポートを目標にしております。多くの努力をしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	適宜、適切なサービス(医療・福祉)など説明している。現在は入所者様以外(地域)からの相談があり話しをゆっくり聞いて、行政・医療・社協などの話しをして喜ばれている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や短時間ではあるが雰囲気の中で過ごせる場作りをしている。ご本人様を良く見て無理のない生活の場作りが大切だと思います。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は介護する側・介護される側でなく人として何が大切かを日々指導し、尊厳を考えて喜怒哀楽も大切な事と考えている。人生の先輩である方々から、職員が学ぶことも多くあることを全員が理解していることが成長と見ている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	全職員がご家族様一人一人への言葉かけを大切にしております。(個別に対応もしている。)スタッフが困った時はご家族様の力が必要であることを理解し対応している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族様の家庭の状況を良く理解して無理のない良い関係作りが出来るように支援している。	○	これからも深い関係作りをやって行きたいと考えている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域民生委員、自治会の協力、ご家族様の力をかりて支援を行って環境作りを大切にしている。馴染みの会として、友人など苑に呼んで食事会など年に2～3回行って交流をもっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲良しグループを大切に環境作りを全職員で見守り支援している。職員が間に入るのではなく、その仲良しグループを大切にしている。場所作りを大切に日々の生活が穏やかに出来るように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所されてもご家族様への電話等連絡して交流を持っている。入院された方へは管理者が面会に行ったりしている。退所されたご家族様にもGHの行事等には参加して頂けるように連絡をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を大切にご家族様と相談して意見を聞いて面会・お墓参りなどを行っている。時には思い出のところにドライブもしている。不安除去の努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自立が目標なので地域の環境にふれることが出来るように日々の生活を感じて行けるように工夫している。花見(花見会)コスモス見学菜の花等地域の田んぼを散歩やドライブする。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	サービス計画書を作成し(一人一人)の現在の状態を見て、その方に合った健康法、健康管理に力を入れる。看護師二人で日々管理している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティング、検討会、気づきノートの利用を活用して一人一人を受け持ちにして、より細かな気付きとケア方法等を全員で検討して支援している。日常生活の中で行っているサービス計画書はご家族様がいつでも見られるところへ提示している。ご家族様のご意見は大切にしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアマネージャが日々全職員より情報を取り急変時の見直しプランを苑独自プランでご家族様・医療関係者等の支援を大切にしている。管理者は、現状に応じて利用者を理解して全職員の気付きをケアプランにつなげる努力を指導している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人のファイルを作成して気づき・問題など情報を共有して見直しに取り組んでいる。ケアプランは全員の意見が大切でありその時の利用者様の状況をご家族様へしっかり報告して意見を取り入れてそれをプランに反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	いつでも、自由に活動が出来ることを大切にしご家族様、ご利用者様又地域活性に取り組んでいる。地域以外の方でもいつでも参加出来る支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の子供会(育成会)婦人会・自治会・老人クラブ・民生委員・消防署・高齢者のお店の方々・福祉・行政・医療福祉関係者等多くの交流を大切にしている。昨年から認知症について、他施設職員の実習施設として受入も行なっている。	○	今後はこの交流を大切に多くの子供達と地域の方々が今以上に来苑して下さることを考えております。利用者の生きがいにつなげたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域支援連絡会に毎週参加して他のサービス事業所との交流を行なっている。	○	情報の共有をしている。利用者・地域の方々が困らない支援にこれからも力を入れて行きたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	法人居宅支援センター・地域支援センター・法人相談員、社会福祉支援センターとの会議に参加して情報交換も行なっている。	○	情報交換を大切にしている。今後は多くのかかわりをもって行きたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	関連法人の主治医と24時間オンコールできる体制作りをしている。いつでも受診できる。ご家族様の意見を大切に必要に応じて治療についてはご家族様と管理者立会いで主治医と交流をもって安心につなげている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医とは日々情報交換をして頂いて詳しい情報を流して指示をもらい安心して治療が出来る支援をしている。必要時にご家族様と主治医のところへ同行し説明を聞いている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	法人医療機関と毎日交流をもって二人の看護師が利用者の健康管理に努めている。(感染委員も作っている)特に主治医と面会して相談したり一人一人に合った治療を行っている。特に感染症に対しては法人と同じ手順でマニュアルを作成している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合、病棟の看護師長達と情報が取れるように管理者は日々ラウンドすることに努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	GHでの終末期ケアはこれから必要と考えていますがご家族様の意見を大切にしております。(主治医の指示)が大切と考えている。今後は、主治医との情報交換を大切にしながらご家族様の安心へつなげるようにしている。同意書も作成している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期ケアについては、法人医療チームと情報交換を大切にしている。必要な準備、ご家族様への説明も行なっている。GHで現在は全部対応出来て入院等はない。出来ることはGHで8人のスタッフと看護師2人で行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報交換・看護サマリ介護サマリについては十分な報告が出来るように努めている。管理者はその都度ラウンドして交流に力を入れている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員へ常に人としての尊厳を大切に接することを目標に指導している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者様の行動ひとつにも まず声をかけて意思を確認して支援している。歩行介助・体操・レク・移乗・入浴時 ご本人に沿って行う。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の場所、雰囲気・表情を見ながら その方にふさわしい場作りに力を入れている。 ○ 安心して腰を下ろせる場作り ○ ホット笑顔が出る安心感作り ○ その方のいつもの場所作り	
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者様一人一人に合った美しさ、おしゃれが出来る環境作りを行なっている。理美容はご家族様の同意を得て全員管理者が行っている。特に(髪・爪)は感染につながるので日々手入れを促している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の自立支援として準備から後片付けまで 声かけで生き生き生活につなげている。準備は庭の野菜取りや100円店への買出しまで(ゴマすり・盛付け・味見)等して頂いている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご家族様から差し入れなどがあつた場合は、日付など確認してお渡ししている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の日常生活の排泄パターン表を作成してトイレで排泄が快適に出来るよう支援している。健全な排泄が基本と全スタッフへ指導している。排泄の喜びを共にしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴については、その日の表情があったり行動があったりタイミングのずれがありますが清潔面を考えて支援している。利用者の希望通りでは事故になることを考える点があり出来るだけスタッフの多い時間としている。時には温泉へも出かける。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者一人一人がホットして安心して休まれることを目標として支援している。休まれるパターンがそれぞれ違うのでその方に合った介護を行っている。 迷いがある眠れない時はゆっくりティタイムをするなどして安心へつなげている。		
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	私はここまでは出来るよと言葉が出るような問いかけをして自分の役割を身につけていただく支援をしている。 自分が出来ることをその方なりに行動に出して下さる場面を大切にその方が出来る事を伸ばすことも大切と考えて居ります。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様それぞれが認知症も進行して徐々に難しくなって来ておりますので、ご家族様の理解のもとで支援して居ります。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常生活の中に変化がもてる環境作りや外部の雰囲気や外部の環境を大切に支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族様との交流を大切に手伝いをさせて頂き外出は出来るかぎりの支援をしている。	○	今後はご家族様全員とスタッフ、利用者様とで近いところでレクなど計画してみたいと考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で自由に出来るので日々電話されている。日々の日記帳など記録して頂いている。書中見舞いや年賀状等手作りで書いて出して頂いている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	多くの方々が来苑されて短時間でも安心して心のやすらぎが出来る時間を過ごされる支援をしている。雰囲気作りに努めている。GHでの食事会に招いて笑ったり泣いたり会話を大切にしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を作って全員で検討している。	○	全員で拘束の意味を理解するように努めて今後多くの研修会への参加を考えている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠についてご家族様より多くに言葉を頂いております。とにかく事故にならない為には必要ですとの言葉が多く必要最小限の施錠は必要と考える。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(その方らしく)をモットーとしています。全体の様子を理解して自由に出来る支援に努めている。また、24時間を通して迷いがなく自分らしく生活出来る見守りをしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管と管理は施錠している。消毒液・洗剤・ポリデント		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	全職員へ利用者一人一人を理解して行動や事故にならないよう判断を早く(急変時の対応等を実技で行なっている)全マニュアル作成してある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時に対して全マニュアル作成いつでもだれでも見れるところに置いてあり実技指導も行なっている。年2回		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自治会・地域の協力・法人の協力体制を保持しています。運営会議等でボランティアの方々自治会の方々にも話しを出している。法人と同時に防災・消火訓練も行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	介護計画の中にも今後推測されるリスクについても取り入れ十分な説明をご家族様にも行なっている。起こりうる事を目に対応してご家族様への理解を大切にしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	高齢者は日々の早期発見、早期の治療が必要なことを全スタッフへ日々伝えている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師2人で服薬については管理して居り服薬マニュアルを準備している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材や調理方法、水分補給に配慮しながら排泄の大切さを指導して自然排便が出来る支援を行なっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	1日3回食後の口腔ケア歯間ブラシなど徹底し取り組んでいる。管理者は口腔・鼻腔・感染が高齢者の身体に影響が大きいことを全スタッフへ指導している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1回ごとの食事量把握して食事の摂取量に応じて、粉ミルク、ホットミルク、電解質のバランスを考えて柔軟に支援している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染委員を立ち上げて環境整備は全スタッフで取り組んでいる。（全マニュアル作成）	○	今後も法人医療機関と連携を保ちながら全力をつくしたいと考えている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材、調理用品は日々点検衛生管理に全スタッフで行なっている。消毒箋を作成している。	○	感染源をなくする努力に努めていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	やさしい作り、花作り、四季に花を大切に利用者の手作り作品などで空間作りをしている。	○	月に合わせた手作り作品。野や山の季節感が分かりやすくなごみの環境作りを続けていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は古いが中は高齢者にとって、長い人生生活してこられた空間と物・目にする物であったり手にする物など心の安らぎにつながる環境作りに全員で取り組んでいる。	○	これからも同敷地内医療法人・福祉施設又は幼稚園児達とふれあいの出来る現状の環境を今以上に外部へ情報を発信していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にはくつろぎソファ・リビングは広くのんびりしたソファがありその日を大切に生き生きとした生活空間を考えている。	○	ソファでのんびり休んだりリビングにピアノが置いてありどこにでも移動してくつろげるようにしている。これからは楽器を使っているところで演奏もしたいと考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真、つかいなれた寝具や花瓶などを置いて日々の中で迷いの少ない支援につながっている。ご家族様の希望があれば泊まれる。	○	より多くのご家族様が気軽にくつろげることに努力して行きたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	感染を出さない目標なので、リビング内空気清浄機24時間オープン毎日各居室換気、加湿器2台使用している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目標として一人一人の環境を考えて機能訓練など日々行ないその方に合った自立支援をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その方々一人一人が現在生きている機能能力を全員で取り組んでいる。時間を見つけては敷地内の地藏さん参りも行って安らぎにつなげている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	日々行なっています。美しい庭園と日本の滝百選にもあ選ばれた龍門滝を朝夕眺めながら楽しめる時間も大切にしています。	○	庭園を毎土曜日(晴天時)午前10時～16時までブッククロージングをオープンしてティタイムをしながら本読みなどしている。多くの外部の方々のおいこの場として行きたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ① 実践の中で介護技術、知識など日々行なっている為スタッフの介護の輪がしっかり出来ていることです。
- ② 利用者様一人一人を全員が理解して気付きが早く→ 早期対応で安心へつながっていることです。
- ③ スタッフが不安を持たないで日中勤務と仕事が出来るといつでも24時間オンコールをしていることです。
- ④ アピールについて 建物は古いですが、環境としては朝夕小鳥のさえずりを聞き雄大な龍門滝をながめ、前には桜島と錦江湾を敷地ないは高齢者から～0歳児～幼稚園児・医療と多くの人との出会いふれあい出来るのどかな環境で中は家族的な雰囲気一人一人の生活にあった対応をしているところです。自信を持っております。